

# ボランティア便り

第2号 (年3回発行)

## 《第45回久留米市ボランティア・フェスティバルと福祉大会特集》

今年度のボラフェスは変則的ですが、長年献身的に地域活動した民生委員・校区社協役員などを顕彰する福祉大会（通常11月開催）との合同大会として、2月4日会場を野中生涯学習センターと隣接する共同ホールに分かれて開催されました。昨年の7月豪雨で災害ボラティアセンターが10月末まで活動を継続してきたからです。雨天が予想されていたが、曇時々晴れのまですずの天気でした。12月の実施決定からの短い告示期間でした。朝9時からの会場準備開始、11時浦川豊彦実行委員長の開会挨拶と能登半島震災の募金要請で始まり、午後2時半の閉会式までの3時間半でしたが、各団体と来場者で交流を深めました。社協では、約600人の来場者があったと推計しています。

浦川実行委員長@開会式



第51回福祉大会@共同ホール

第51回久留米市福祉大会（記念講演とシンポジウム）

正午からボラフェスと平行開催された福祉大会では、記念講演に先立ち、久留米市社協常務理事で災害ボラティア・センター長の川崎勝之氏から、今回の災害ボラセンの活動総括が基調報告としてなされました。昨年7月7〜10日豪雨直後の11日に6年連続となる災害ボラセンを立ち上げ、過去最長の119日間の災害復旧支援活動で、12校区97自治会の272棟（うち床上浸水は923棟）に延べ771名ものボランティアを派遣することができた、と報告されました。特にSOSを出せない人への支援として、複数回の戸別訪問で聞き取りを行ったことが印象的でした。

【記念講演 なぜ社協が災害ボラセンを運営するのか】講師：特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李仁鉄（りじんてつ）

まず、元日の能登半島震災支援の現状に触れ、時期とアクセスの悪さから災害支援が極めて困難であり、通常の何倍も時間が必要なことが報告されました。



次にNPO法人制度と共に災害ボランティアセンターが生まれたのは、阪神淡路大震災の苦い教訓からです。特に大災害時には行政単独では到底対応できないため、民間支援団体と連携・協働する重要性が認識されました。海外では赤十字社／赤新月社が対応していることが多いのですが、日本では地域と常時繋がりを持っている社協が最適だったからです。

それは、日本人の「助けて」と言えず支援を「拒む」被災者心理が働き、「授け力が低い」ためです。そのため、頻回訪問してニーズを聞き取る必要があります。これは、食料支援をしている久留米のフードバンク活動でも頻りに経験します。

【シンポジウム 災害から私たちの地域活動を考える】 山本校区社協会長・市民生委員児童委員協議会会長 綾部章子 災害NGO結(ゆい)代表 前原土武

ダイハツ九州開発センター長 渋谷茂伸

綾部氏から高齢地域での災害対応の地域の現状が、現在能登でも重機支援中の前原氏から社協が繋ぎ役になって支援活動がスムーズになったことが、企業の行動指針として社会貢献をするが自社の成長に欠かせないことなど報告されました。



**野中生涯学習センター(飲食・福祉車両展示)**

飲食の提供及び飲食スペースは、野中生涯学習センターの軽運動室内と屋外駐車場に設置されました。軽運動室の直ぐ隣には調理室も併設され、ガスレンジ6台など調理設備が使用可能でした。

屋内では、そば打ち迷人の会(そば打ちデモ)、すこやか推進会(おにぎり・お茶)、北野ボラ連「さくら会」(おはぎ・いなり・赤飯)、BBS会(唐揚げ)、安武子ども地域食堂(豚汁セット・餅入ぜんざい・チキンカレー・いきなり饅頭)の5団体。

屋外では、むげん企画(石焼き芋・綿菓子・その他販売)とポレポレ倶楽部(たこ焼き)に加えて、キッチンカー2台(ユキチャンキッチン(クレープ・弁当)と酒落カフェ(珈琲・スナック)でした。多彩なメニューに、梯子する人もいましたが、総じて野中生涯学習センター会場は、外部からの来客数が伸びずに販売に苦戦したところが多かったようです。

また、青少年育成センター前では車椅子を折り畳まずに積載できる福祉車両の展示もありました。

福祉車両の展示 および屋外飲食提供と飲食スペース



共同ホール研修室(展示・体験・販売)

参加団体はセラピー・お手玉会、心眼ハートあいず、久留米市母子寡婦福祉会、地域センターあすなろ、ぱーぷるリボン、クローバー、シニアネット久留米、ぶらっとどっと、言葉の森くるめの9団体でした。準備に学生ボランティアの皆さんにも手を借りました。参加者は、セラピー体験ではほっと一息、しおり作りで点字に初めて触れたり、補聴器をつけてみて、音の入り方を実際に体験したり、このイベントならではの体験をさせていただきました。

また、団体で作った小物や雑貨、野菜や果物等の販売も行われました。工夫を凝らした小物類など、利用者の方たちの思いが伝わる品物が沢山ありました。団体の展示物をきっかけに、新しく出会った人同士で話の輪が広がり、楽しい交流の場となりました。

各団体がつながり合い情報を共有していくことで、さらに地域のボランティア力を高めることができる、と実感したイベントとなりました。

共同ホール(展示・体験)

共同ホール玄関前の久留米市広域消防本部所属地震体験車では、阪神大震災の震度7の揺れを1分間体験できます。能登半島地震直後ともあって、地震体験希望者が続出しました。

くるめ災害支援ネットハッシュ#は多発する浸水被害の床下の泥水の掻出し・乾燥の仕方を床下模型を使って説明され、災害復旧の支援活動をしています。

日赤救急法のコーナーでは人形を使った心肺蘇生の仕方、AEDの使い方等と共に、救助者が傷病者への対応を始めた時間を正確に医師や救急隊へ伝えることの重要性を強調されていました。



心肺蘇生訓練



くるめ健康皿回し愛好会

初日曜日開催  
ボラ連ワークショップのご案内

日時…3月10日(日) 午後1時半から

場所…総合福祉センター12F大会議室

対象…ボラ連加盟団体及びボランティア

活動に興味がある方

テーマ…語ろう楽しいボラ活動と悩み  
ワークショップ形式…少人数4〜5名で  
テーブルを囲み、飲物とスナックでくつろぎながらお互いのボランティア体験を語り合い、悩みの解決の糸口を見つけてみましょう。



松田副実行委員長@閉会式

会費納入のご案内

当会は、加盟団体の年会費と社協からの助成金で運営されています。現在6団体が未納です。ご理解のうえ協力をお願いします。